

❖ 着飾ることに魅せられた日本語

ある言語の話し手から見ると、他の言語の話し手が、その言語を構成する要素の中の、ある特定の部分にそれほど多くのエネルギーを費やすことが、あまり合理的でないように思えることがしばしばあります。

日本語が服やアクセサリーを装うときに用いる、その多種多様さといったら、英語の話し手にとっては、どうして日本語がそれほどまでに、着飾ることにこだわっているのか不思議に思えることでしょう。

英語では、私たちが何かを身につける場合、

put on +
shirts/trousers/coats/shoes/socks/gloves/hats/
glasses/necklaces/watches, etc.

と言います。日本語ではどうして、この put on という概念を表すのに、あれほど多くの異なることば（動詞）を必要とするのでしょうか。

着る、羽織る、履く、はめる、かぶる、かける、つける……

逆に、もし「コンタクトレンズ」を上のリストに加えたら、日本語では、「はめる」「つける」など、手袋をはめたり、グローブをつけるときに用いるのと同じ単語で言うでしょう。しかし、英語では、contact lens にそのような同じ動詞を用いることは絶対できないのです。つまり、“(×) I put on my contact

lenses.”とは言えないわけです。

もちろん、英語の話し手は、もしそう言われても、おそらく文脈や状況から、みなさんが何を言いたいのかわかってくれるでしょう。しかし、だからと言って、その文が「英語」ではあるということにはなりません。

いったいどうして英語と日本語でこんな違いがあるのでしょうか？

それは、英語の話し手である私が自分の身体や手、足、頭、耳などについて話すとき、私お話しているのが「表面」(これを〈on 空間〉と呼びます)に関わることだからです。

私の目は「表面」でなく、「入れ物」(これを〈in 空間〉と呼びます)です。箱は典型的な「入れ物」であり、私たちは箱の「中」にいろいろなものを入れます。“I put my contact lenses in.”(私はコンタクトレンズをつけた)と言うのも同様です。in の反対は out ですから、はずす場合は当然、take my contact lenses out とすることになります。

英語の話し手がこれらの表現から想像するのは、何かを穴の中に入れてたり、穴の中から取り出したりするイメージです。

もう一例あげましょう。英語では、どこかをたたく場合、たたく場所によって

He hit me in the stomach.

彼は私のお腹をたたいた。

He hit me on the chest.

彼は私の胸をたたいた。

と使い分けるのがふつうです。